

ときめき人

Tokimeki bito



キャンドルで たくさんの人を 癒やしたい

中田町・上沼新田(東和町・錦織5区 出身)

鈴木 弘美さん

すずき ひろみ
1960年生まれ



すずきキャンドル
Instagram



5月25日に開催されるイベント
「とめまる」で使用されるキャンドルを監修。

「キャンドルの火を眺めると気持ちが落ち着き、ゆったりとした時間を過ごすことができるんです」と話す鈴木さん。キャンドル工房「すずきキャンドル」で作品を制作。やさしさを感じさせる淡い色合いと、なめらかな質感の作品は、見る人の気持ちを穏やかにする。

鈴木さんがキャンドル職人を志したのは10年前。キャンドルを手作りするイベントに参加し、オレンジ色の火がやわらかく揺らぐ様子に魅了されたことをきっかけに、キャンドルインストラクターの資格を取得し、作品の制作を始めた。「全ての工程を手作業で制作していて、表面にきれいなつやが出るように、材料の配合や作り方を工夫しています」とこだわりを話す。

公民館やイベントの場でキャンドル作り体験の講師を務めることも多く、クリスマスやハロウィンなどは時節に合わせた企画を用意して楽しんでもらっている。「フルーツ型の素材を見てかわいいと笑顔になったり、悩みながら真剣に作る参加者の姿を見ると準備して良かったと心がほっとします。こうして活動できるのは、自分に活躍の場を与えてくれた人たちや側で支えてくれた家族のおかげ」と感謝の気持ちを口にしている。

「今後、整体師の資格を生かして、お客様にキャンドルの火の揺らぎを感じてもらいながら、心と体を癒やす取り組みをしたいと考えています」と新たな試みのため、歩みを進める鈴木さん。多くの人の心に、温かな明かりを照らす。

編集後記

▼高校生会議を取材。将来に向かつて頑張っている高校生たちの姿が輝いて見えました。令和5年度は、市公式LINEに粗大ごみ収集受付機能を追加し、通報機能も拡張してパワーアップ。時代の波について行けるように、私も負けずにアップデートしていきたいです。(高橋)

▼とよま凧あげ大会を取材。私が小学生だった時に授業で手作りしたたこを思い出しました。好きなデザインにできるこの事で、クラスメイトが工夫を凝らすなか、私は自分の名前を大きく書いただけでした。今思えば、かわいいイラストを描けばよかったと後悔しています。(木戸浦)

▼フクジュソウが咲いたと思ったら雪が降り、冬と春を行ったり来たり。桜の写真を見ながら、新しい季節の訪れを心待ちにする日々でした。ところで渡邊は葛藤の末、老眼鏡を手に入れました。「小さい文字が見える！」これで仕事が今までより捗るはず。(渡邊)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市公式LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>